



遺伝子組換え作物の最新動向 2018年10月

世界

BILL GATES 氏が語った：遺伝子組換え種子は農業者が気候変動に対応する助けになる
飢餓と栄養失調撲滅に向けての時間はもうない

アフリカ

ケニア大統領が BT ワタ栽培を承認
エチオピア政府が農業バイオテクノロジーを利用して経済発展を支援
BIOTECH は UGANDA の成長を変える大きな可能性を秘めている

南北アメリカ

米農務省 (USDA) は低ゴシポール (GOSSYPOL) 遺伝子組換えワタを承認
2020 年までにゲノム編集高食物繊維コムギが市場を狙う
ゲノム編集ダイズは米国で収穫されている
遺伝子組換え食品研究は、「キモイ」感じに直面している
情報技術と革新事業財団 (ITIF) は、非 GMO 表示を禁止する請願をした

アジア・太平洋

IRRI と CROP TRUST との合意が世界最大のイネコレクション保存を保証
南オーストラリア州の遺伝子組換え作物に関するモラトリアムに関する独自の見直しが進行中
科学者たちは、将来の気候に対処対応するために、より生産性の高いトウモロコシを設計
研究者は、バングラデシュでより多くの遺伝子組換え作物の商業化を期待
フィリピンの農業者は、BT ナスの栽培に興味を示している

ヨーロッパ

英国の一般大衆は、遺伝子組換え作物を支持するとの調査結果が出た
EUSTICE 氏：ゲノム編集作物は必須
オープン研究成果有体物移転契約 (OpenMTA) は、バイオテクノロジーにおける世界的なイノベーションを支持

PG Economics の報告は、英国が「Brexit plan」後の作物規制に健全な科学を持ち込むことが急務としている

世界

BILL GATES 氏が語った：遺伝子組換え種子は農業者が気候変動に対応する助けになる

Bill and Melinda Gates 財団の共同理事長である Bill Gates 氏は、2018 年 9 月 12-14 日にサンフランシスコで開催された地球気候行動サミットの会議で、革新力を気候変動にまで及ぼすべきだと述べた。Gates 理事長は、気候変動に直面し、影響を受ける人々を支援し、ますます高まるエネルギー需要に対応するためには、革新力が鍵となると考えている。

Gates 理事長は、苦しみを受ける大部分は、「十分な食べ物が無い状況に陥り、悪い年を過ごすために十分な蓄えや備えを持たない小規模農家」と述べている。彼はその結果飢えと栄養不良が起こると付け加えた。

Gates 理事長はインタビューで「我々がなすべきことはこれらの農業者に農業技術と新しい種子を提供することである。つまり旱魃に対応し、洪水対応を改善し、基本的に生産性が高い種子を農家に提供することである。これらの GMO と呼ぶ新しい種子は、先端科学を使って、生産性を倍増させ、旱魃に対処し、飢餓を避けるものである。」と語った。

詳細は、以下のサイトをご覧ください。 [DevEx article](#)

飢餓と栄養失調撲滅に向けての時間はもうない

飢餓を撲滅するための取り組みにはまだ時間がありますが、報告された飢えた人々の数の最近の増加を減らすためには緊急の対策が必要である。これは、イタリア、ローマで今週開いた世界食糧安全保障委員会（CFS）の呼びかけである。CFS は、政策の一貫性と食糧安全保障と栄養に関する事柄をまとめ上げるための最も包括的な国際的および政府間のプラットフォームである。

「無駄にする時間はない」と国連食糧農業機関（ODA）の José Graziano da Silva 総裁は、CFS 会議の開会式の際に述べた。飢餓を根絶することができなければ、

「貧困は根絶されず、天然資源は低下し続け、やむを得ない移民は、増加し続けるだろう。」ということになり、すべての持続可能な発展目標を損なうことになると付け加えた。

今年の会議では、食糧システムと栄養改善そして、食品ガイドラインの権利、気候変動、都市化、食品加工、畜産管理などの他の問題を扱うその他の副次的な項目に焦点を当てた。

CFS 議長の Mario Arvelo 氏は、「我々の議題は非常に野心的であり、もしうまくやれると、各国のすべての人が 2030 年に持続可能な食料安全保障を確保できることになり、それは歴史の転換期になるだろう。」また 「私たちは現在ある人々の悪い状況を解消する解決策を提供できることになる。」と強調した。

詳しくは以下のサイトをご覧ください。 [FAO](#)

アフリカ

ケニア大統領が BT ワタ栽培を承認

ケニアの Uhuru Kenyatta 大統領は、Bt ワタの栽培がワタ業界の活性化につながる可能性を探るため、保健省、農業省、貿易、産業および企業省に指示を出した。Kenyatta 大統領は、英雄記念日の講演で 3 省庁が協力して、遺伝子組換えワタを導入する可能性を含めて、ワタ産業を再生復活させる迅速な仕組みを作るように指示した。

大統領令は、現在、国家実績試験 (NPT) を受けている作物の商業化への大きな一歩を踏み出すことになる。この発言は、国の経済成長を加速させることを目指した「ビッグ・フォー」行動計画に新たな刺激を与えることになる。この計画のもと、政府は繊維・アパレル産業を復活させ、2022 年までに現 GDP に占める製造業の貢献度を現在の 9.2% から 20% に引き上げるために、Bt ワタの導入を義務付けている。

再生活性化プロセスの一環として、政府は、ワタ栽培を通じて直接雇用 68 万人、ワタ織りで 210 人、統合工場 6,000 人、衣類製造業者 2 万 5,000 人の雇用を創出することを目指している。この再生活性化はさらに 12 億 Ksh (シェケル: 1187 万米ドル) の輸入代替品を創出し、ケニアの外貨換算で 87 億 5,000 万ドルシェケル (86 百万米ドル) 相当の輸出品の自給率を高めることになる。

ワタ栽培農家は 3 万人に過ぎず、一方、ワタ産業は、20 万人以上の農家を支える可能性がある。国の繊維作物統計によると、リンアの国内需要は 21,000 ベールの現生

産に対して 140,000 ベールもある。「ワタ農業は、かつてこの地域の多くの人々の収入と生活の主要な源泉でした。」と大統領は嘆いた。

Bt ワタの導入は、現在の推定生産性 572kg / ha から 2,500kg / ha に生産性を高め、生産コストを 40%削減することが期待されている。遺伝子組換え (GM) ワタ栽培の大統領のこの考えは、ケニアの政策立案者によるインドのワタ栽培地域の調査旅行の結果である。インドの遺伝子組換えワタの成功例は、改善された作物がワタ栽培の苦境を解決するために大きく貢献することを政策立案者が確信したことによる。

詳しい情報は、以下のサイトで Dr. Margaret Karembu と連絡を取って下さい。
mkarembu@isaaa.org

エチオピア政府が農業バイオテクノロジーを利用して経済発展を支援

エチオピア政府は、国家経済成長を維持するために農業バイオテクノロジーを利用すると、科学技術革新国務大臣 Shumete Gizaw 博士が明らかにした。国務大臣は、Addis Ababa でのバイオテクノロジーとバイオセーフティに関する科学者のための技術コミュニケーションワークショップのオープニングで、政府はバイオテクノロジー研究とイノベーションを支援する政策を通じて貧困削減へのコミットメントを再確認したと述べた。

Gizaw 博士は、気候変動の影響により、国の食糧安全保障の貧困状態に対する政府の懸念を表明した。「これまでの歴史をみても、エチオピアの食糧生産は、降水量の変動、旱魃の長期化、作物の荒廃、飢饉などの影響を強く受けて来ている。農業バイオテクが我々の食糧システムに対する気候変動の影響をなくするために役に立つと信じている。」とも述べた。彼は更に EBTi (Ethiopian Biotechnology Institute) はコミュニケーション戦略の立ち上げを主導した。EBTi は、国の関係者の間でバイオテクノロジーとバイオセーフティの知識と意識を全国的に改善することを目標としており、また、作物バイオテクノロジーの利点、リスク、影響についての正確な情報を適時に提供することにより、一般市民がバイオテクノロジーの適切な利用について正しい情報に基づいた意思決定を行うことができるようにすることも目的としている。

大臣は、効果的なコミュニケーション戦略と機能的なバイオセーフティシステムの重要性を認識し、これらなくしては、安全なバイオテクノロジー開発の追求、その技術が国や地域でもたらす利益を享受することが困難であることを再認識した。

「EBTi は、国内外の主要な関係者の関与と農業バイオテクノロジー研究とコミュニ

ケーションの適切かつ効果的な実施を提供することを義務づけられている。」と Gizaw 博士は改めて指摘した。

EBTi 事務局長 Kassahun Tesfaye 博士は、この戦略は、政策決定者と主要な利害関係者が知識を共有し、技術の受容と利用を強化し、国の目標を達成するための情報に基づく意思決定を可能にする全国的なコミュニケーションとアウトリーチプログラムを提供するものであると説明した。

更に詳しいことは、以下のサイトで Dr. Kassahun Tesfaye と連絡を取って下さい。 kassahuntesfaye@yahoo.com または kassahun.tesfaye@aau.edu.et

BIOTECH は UGANDA の成長を変える大きな可能性を秘めている

ウガンダは、その成長のために未開拓だが大いに有望なバイオテクノロジーの可能性を持っていると科学技術革新大臣 Elioda Tumwesigye 博士と述べた。大臣は、バイオ経済がウガンダに油よりも多くの資金をもたらす可能性を秘めているとした。

Tumwesigye 氏は、2018 年 9 月 19 日、ウガンダバイオテクノロジー・バイオセーフティコンソーシアム (UBBC) が主催する「バイオテクノロジー科学年次大賞」を主宰しながら、発言を行った。UBBC 議長の Erastus Nsubuga 氏は、大臣の発言に呼応して、科学への投資は、バイオ経済の発展を支えこれから長期にわたり続くものであると述べた。

表彰式典でノルウェー大使代理の Hans Peter Christopersen 氏は、農業をより効率的かつ競争力のあるものにするためには、バイオテクノロジーが重要だと認識を述べた。「ウガンダは農作物から魚や動物に至るまで非常に豊かな可能性を秘めているが、時代遅れの慣行に依存しているため大部分は未開拓のままである。」と述べた。

このイベントでは、最も優れたバイオテクノロジーの革新家、起業家、コミュニケーターが、同国におけるバイオテクノロジーの研究開発を促進したことで賞を授与された。

UBBC についての更なる情報は、以下のサイトで Grace Prospero 氏と連絡を取って下さい。 prospero.ocheng@ubbconsortium.org

南北アメリカ

米農務省 (USDA) は低ゴシポール (GOSSYPOL) 遺伝子組換えワタを承認

米農務省 (USDA) の動植物検疫局 (APHIS) は、テキサス A&M 大学の専門家によって開発された超低レベルのゴシポールを含む遺伝子組換えワタの規制緩和を発表した。

ゴシポールは、害虫および病気から身を守るためにあるワタにある天然色素化合物である。テキサス A&M の科学者は、さまざまな植物部位で保護作用が出るレベルのゴシポールを生産するようが、種子では減少するようにワタを改良した。種子中の低ゴシポールは、綿実油の精製コストを低減し、家畜および養殖飼料産業における綿実油の適用を拡大するため有益である。

APHIS は、遺伝子組換えワタの植物病虫害リスクアセスメント (PPRA) 草案と環境査定草案 (EA) についてのパブリックコメントをすべて考慮した上で、国家環境政策法に基づき最終 EA における潜在的な環境影響を徹底的に見直し、重大な影響を及ぼさないと判断した (FONSI)。

APHIS は最終的な PPRA において、遺伝子組換えワタが米国の農作物やその他の植物に植物病虫害のリスクをもたらす可能性はあり得ないと判断し、この種の遺伝子組換えワタの規制緩和を 2018 年 10 月 17 日に発効した。

メディアリリースを以下のサイトでご覧下さい。 [APHIS](#) 及び [Texas A&M AgriLife Today](#)

2020 年までにゲノム編集高食物繊維コムギが市場を狙う

最初のゲノム編集高食物繊維コムギの最初の収穫は、その開発者 Calyxt によって報告されているように完了した。高食物繊維コムギは、うどん粉病抵抗性コムギ、高オレイン酸大豆、高オレイン酸/低リノール酸大豆ダイズ、改良された大豆オリーブ油、高オレイン酸/低リノール酸ダイズ、品質アルファルファ、冷蔵保存可能ジャガイモ、還元褐変ジャガイモを含む米国農務省 (USDA) によって規制されていないとして宣言された 7 番目の Calyxt 製品である。

「食物繊維が健康な消化に不可欠で、冠状動脈性心疾患や糖尿病などの食物関連の慢性疾患のリスクを低下させる可能性があるため、高食物繊維製品に対する消費者の需要はこれまでになく高い。大部分の成人消費者は、推奨されている食物繊維の

半分程度しか摂取していない。しかし最近の進歩により、標準的なものよりも食物繊維を最大3倍多く含む製品の開発に一步近づき、同じ食味を持ったもので消費者の好みに適合した健康的な選択肢となった。」と Calyxt CEO の Jim Blome 氏は説明した。

高食物繊維コムギは、Calyxt 独自のゲノム編集技術である TALEN® を使用して開発され、ヒトゲノムよりも約6倍のコムギゲノムに小さく正確な改変をもたらした。ゲノム編集コムギは、2020/2021年までに商業的に入手可能であると予測されている

詳しくは、ニュースリリースを以下のサイトでご覧下さい。 [Calyxt](#)

ゲノム編集ダイズは米国で収穫されている

米国の3州の農家は、遺伝子編集技術によって開発された16,000エーカー（約6,475ヘクタール）のダイズを収穫している。ダイズは、揚げ油、サラダドレッシング、グラノーラバーでの使用のために消費者に販売されることが期待されている。これは、新しい有望な技術を用いて開発された、米国における最初の商品化された作物である。

2018年3月、米農務長官 Sonny Perdue 氏は、ゲノム編集などの新しい育種技術の製品は、この技術を使用する際にリスクがないため規制されないとの声明を発表した。Perdue 氏によると、新しい技術は、新しい特性を正確かつ迅速に導入することができるため、従来の植物育種ツールを拡張し、他の技術を使用するよりも早く農業者に改良された作物を提供することができる。

詳しくは以下のサイトでご覧下さい。 [BIO SmartBrief](#)

遺伝子組換え食品研究は、「キモイ」感じに直面している

セントルイスのワシントン大学のオリンビジネススクールの助教授 Sydney Scott 氏が率いる研究者が行った新しい研究は、遺伝的に改変された（GE）食品に対する「横向きの態度、キモイとの感じ方」に直面している。この研究は、農業における遺伝子工学の20年以上も成長してきたが、消費者は、依然として懐疑的か気持ちが悪いところまでも来ている感じがすると結論している。

Scott 氏は、「消費者はDNAを突っつくことは、問題ないと言っておらず、むしろ『キモイ』としている。人々は、気持ちが悪い。」ととっている。つまり著者によると人々は、自然と自然なるものを神聖とみなして、遺伝子組換え食品は自然の冒

流とみなしている。また研究者は、消費者が「うわさの魔法の法則」に従うことも示されている。これは、自然食品とそれ以外のものとのわずかな接触がそれを汚染するという考え方である。したがって、「スープのボウルのイエバエの羽で食べ物全体を食べられないようになる。」と同じことである。

研究者らは、GE 作物規制への 4 つの政府のアプローチを、振興 (promotional)、許容 (permissive)、予防 (precautionary)、防止 (preventative) と段階を踏んでいると説明した。欧州連合 (EU) は制限的であるが、米国は許容的としている。この研究はまた、GE 食品の賛成者とその反対者との間のギャップを明らかにすることを目的としていた。Scott 氏によると、科学的な情報だけを考慮に入れてはギャップを解消することはできない。彼女は、より良いコンセンサスに到達する方法を見つけようとしていると付け加えた。

詳しくは、以下のサイトをご覧ください。 [The Source](#)

情報技術と革新事業財団 (ITIF) は、非 GMO 表示を禁止する請願をした

科学技術シンクタンクの情報技術と革新事業財団 (ITIF) は、食品医薬品局 (FDA) に非 GMO 表示使用禁止の市民権を行使して請願した。このグループは、非 GMO 表示は、「食品、食品添加物及びその健康への効果と安全性に関して誤りや誤解を招いて消費者を欺くことになる。」と主張している。ITIF 上級研究者の Val Giddings 氏は、非 GMO プロジェクトによって開始されたこのような表示は、法律違反の行為であると言ひ、FDA に、これらの虚偽の主張によって広がった混乱に対して反対するように求めている。

この詳細は、以下のサイトをご覧ください。 [Citizen Petition](#)

アジア・太平洋

IRRI と CROP TRUST との合意が世界最大のイネコレクション保存を保証

国際イネ研究所 (IRRI) と CROP TRUST との間の合意は、世界各地からの 136,000 のイネ品種の保全と共有を保証することとなった。世界最大のコメコレクションは、シンガポールでの 2018 年 10 月 16 日の世界食糧デーに行われた第 5 回国際イネ会議で、年間 140 万米ドルの永続的な資金提供を受けることについて調印された。

世界中の科学者は、フィリピンの Los Baños にある IRRI の遺伝子バンクに保管されているイネの種子を利用している。IRRI の科学者は、インド、中国、フィリピン、ベトナム、ミャンマー、カンボジア、インドネシア、インドネシアなどの重要

な米生産地域ですでに生産を脅かしている旱魃や洪水などの環境問題に対応する突破口をもつ品種の開発にこれらを利用してきている。

IRRI 遺伝子バンクを管理する進化生物学者 Ruaraidh Sackville-Hamilton 氏は次のように述べている。「我々のイネ保存活動は、世界に利益をもたらしてきた実績がある。このコレクションを安全に保存することで、改良されたイネ品種の開発に引き続き使用できる。即ち農家は米生産における様々の課題に対応し、また、さまざまな消費者の嗜好や好みに適応することができる。」

IRRI 遺伝子バンクには、1960 年代と 70 年代の緑色革命時にアジアが飢饉の危機を救った「奇跡のイネ」である IR8 の祖先と子孫が含まれている。このコレクションには野生イネ種も含まれ、これは高温および旱魃耐性イネ品種の開発に使用されている。

詳しい情報は、以下のサイトにあるニュースリリースをご覧ください。 [IRRI](#) 及び [Crop Trust](#)

南オーストラリア州の遺伝子組換え作物に関するモラトリアムに関する独自の見直しが進行中

南オーストラリア州の遺伝子組換え作物の栽培に関するモラトリアムについての独自の見直しが進行中であり、Kym Anderson AC 名誉教授がこれを率いることになる。現在の南オーストラリア GM 食糧作物モラトリアムは、貿易と市場アクセスのためのものである。

この見直しは、南オーストラリア州の GM 作物の商業栽培についてモラトリアムが市場利益をもたらす利用可能な証拠を評価するものである。また、南オーストラリア州における農場の影響、食品製造、サプライチェーン・コスト、研究開発投資への影響などに限定されず、モラトリアムの維持、変更、または削除の経済的コストと利益を定量化しようとするものである。

この見直しは、さまざまな視点からの理解とモラトリアムの現在および将来の経済的影響をよりよく理解することを目的としている。この見直し完了後、南オーストラリア州の GM 食用作物に関する政策決定が正しい科学情報に基づいて行われることが可能になる。

詳しくは以下のサイトにあるニュースをご覧ください。 [Waite Agricultural Research Institute](#)

科学者たちは、将来の気候に対処対応するために、より生産性の高いトウモロコシを設計

国際研究チームは、大気から二酸化炭素 (CO₂) を固定する酵素を標的とすることにより、トウモロコシの生産性を高めることができることを発見した。オーストラリア国立大学 (ANU) の翻訳光合成のための ARC センターオブエクサレンスの Robert Sharwood 博士は、光合成に関与する主な酵素 Rubisco を高生産する遺伝子組換えトウモロコシを開発したと述べた。その結果、優れた光合成とそれに伴う優れた成長をする品種が生まれた。

光合成により、植物は大気中の CO₂ を固定するが、すべての植物が同じようにそれを行うわけではない。コムギとイネは C3 光合成経路を使用し、トウモロコシとソルガムはより効率的な C4 経路を使用する。C4 植物では、Rubisco は、より速く働き、より良い水利用効率のため、高温と旱魃に対してより耐性がある。

コーネル大学の関連会社である Boyce Thompson Institute 研究所の共同研究者 David Stern 氏は、トウモロコシ細胞内でルビスコを増やすと、作物の生産性が向上することを発見したという

詳しいことは以下のサイトにあるニュースリリースをご覧ください。 [ARC Centre of Excellence for Translational Photosynthesis](#)

研究者は、バングラデシュでより多くの遺伝子組換え作物の商業化を期待

2018年9月9日、バングラデシュ Mymensingh にある Bangladesh Agricultural University (BAU) で 70 人以上の学者と学生に向けて 2017 年に商業化されたバイオテク/ GM 作物の世界的状況が発表された。国際アグリバイオ事業団国際知識センター長 (ISAAA Global Knowledge Center on Crop Biotechnology) の Rhodora R. Aldemita 博士と同南アジアバイオテクセンター (ISAAA-South Asia Biotech Center, SABC) の Bhagirath Choudhary 氏が報告書のハイライトを紹介した。両者ともアジアの発展途上国の一つであるバングラデシュが遺伝子組換え作物を承認し、バングラデシュの飢餓や栄養失調の人々に食糧を与えられる可能性を認めていることを強調した。

主賓の BAU の副理事長兼教授の Ali Akbar 博士は、ゴールデンライス、疫病耐性ジャガイモ、Bt ワタについての進行中の研究について述べた。BAU の研究者たちは、政府の強い支持と遺伝子組換え作物の受け入れを通じ、バングラデシュが近い将来他のパートナー国より先にこれらの作物を商業化すると楽観的だった。討論から浮かび上がったことは批判家及び食糧、環境の安全にどのように対処するかについての質疑は、ISAAA と SABC の講演者だけでなく、大学の一部の教授によって行われた。

より詳しいことは、以下のサイトに問い合わせ下さい。

knowledge.center@isaaa.org

フィリピンの農業者は、BT ナスの栽培に興味を示している

農業者、職員、自治体職員、Camarines Sur 地域の選ばれた事務官からなるおよそ 160 名の参加者及び学界、非政府組織の代表に対してバイオテクノロジー、遺伝子組換え (GM) 作物の食品、環境安全性の科学、現在開発が進んでいるバイオテクノロジー製品群、現在のバイオ安全規制指針についての講演が 2018 年 9 月 26 日に Camarines Sur にある Naga City の Villa Caceres Hotel で開催されたバイオテクノロジー 101 と JDC Public Briefing で行われた。

フィリピン大学ロスバニョス - 植物育種研究所 (UPLB-IPB) およびフィリピンココナッツオーソリティ (PCA) の科学者、ならびに JDC (農業、科学技術、内務省および地方自治体政府と環境及び天然資源省) が多くの課題の討論や参加者からの質問に答えた。

このオープンフォーラムでは、農業者は、遺伝子組換え作物、特に Bt ナスの利用可能性に関心と期待を表明した。何人もの農業者は、種子栽培者として訓練してもらえるか質問をした。Bt ナスプロジェクトチームのメンバーは、作物が商業化され、作物の栽培管理に関する研修が実施されると、Bt ナスの種子が適切な価格で利用可能になることを農業者に保証した。参加者は、またゴールデンライスの状況、Bt 作物と有機農業の両立性、Bt 作物の収入と収量への潜在的な影響についても関心を寄せていた。

今年予定されている一連の公開ブリーフィングの第 1 回目であるこの活動は、ISAAA、農業省バイオテクノロジープログラム室、東南アジア地域農業バイオテクノロジー情報センター (SEARCA BIC) と Central Bicol State University of Agriculture (CBSUA) との協力で実施した。

フィリピンのバイテクに関する最新のニュースは以下のサイトをご覧ください。 [SEARCA BIC](#).

ヨーロッパ

英国の一般大衆は、遺伝子組換え作物を支持するとの調査結果が出た

英国の国民は十分な情報を得ており、科学及び技術を支持しているが、政治家は彼らの希望と恐れを無視している。これは科学、技術、医学、環境に対する世論に対する 2018 新科学者の調査結果によるものである。

この調査は、2018 年 8 月に Sapio Research によってオンラインで実施され、英国成人 2,026 人の代表サンプルについて行った。結果は、国民の関心を集めている最優先課題は、遺伝子工学、人工知能、癌、気候変動であることを示した。彼らは、これらの話題が「社会や人間の生活に最も影響を及ぼす可能性が高い」と述べた。さらに、大部分（69%）が遺伝子組換え（GM）作物を支持しており、世界の食糧供給に役立つと述べている。大きな割合（80%）は、遺伝子工学が病気の治癒や根絶に役立つとも信じている。

詳しくは、以下のサイトをご覧ください。 [New Scientist](#)

EUSTICE 氏：ゲノム編集作物は必須

環境・食糧・農村省（Defra）大臣 George Eustice 氏によると、英国が化学農薬の使用を減らそうとするならゲノム編集作物が必須である。同氏は、英国政府の 'Chequers' Brexit plan がどのようにゲノム編集研究に影響を与えるかについて明確にしてほしいと要求している科学者および業界リーダーのグループからの手紙に応じて、この声明を発表したとしている。この手紙は、欧州司法裁判所がゲノム編集に適用されるのと同じ規則に従わなければならないと宣言した後に送付されたものである。

「我々は、ECJ が判断した意見に同意していないが、我々は、ゲノム編集とシス遺伝子操作（cisgenesis）は、従来の育種技術の延長上にあり、我々が何十年も持っていたものだと考えている。」と Eustice 氏は Defra を代表して述べた。「EU では農作物の栽培を許可していないにもかかわらず、GM 食品が EU、特に動物飼料で広く販売されているケースがある。決定は、国家的なものであり通常の共通のルールブックでは、影響をうけない。」と強調した

原報告は、以下のサイトをご覧ください。 [The Scottish Farmer](#)

オープン研究成果有体物移転契約（OpenMTA）は、バイオテクノロジーにおける世界的なイノベーションを支持

オープン研究成果有体物移転契約 (OpenMTA) は、研究機関が材料を共有するための言葉や条件を定義するための法的枠組みを提供するもので国際的な協力によって利用可能になっている。

新しい使い易いツールは、世界的なバイオテクノロジーのオープン性、共有性、革新性をサポートするように設計されている。OpenMTA は、サンフランシスコに本拠を置く BioBricks Foundation と英国に本拠を置く OpenPlant Synthetic Biology Research Center が開発し、創成者の権利を尊重しながら安全な実践を促進して、材料の再配布と商業的使用を可能にするものである。

OpenMTA は、アクセス、帰属、再利用、再配布、無差別に基づいて設計されている。これらの設計目標には、安全性と国際情勢における共有が含まれる。BioBricks Foundation の上級理事の Linda Kahl 博士は、次のように述べている。「世界中の組織が OpenMTA Master Agreement に署名し、それを使用することを奨励している。」 Kahl 博士は、OpenMTA が 5 年後に研究材料を移送するためのデフォルトオプションであることを目標としていると付け加えた。

詳しいことは以下のサイトをご覧ください。[news release](#) OpenMTA Master Agreement への署名については、以下のサイトをご覧ください。[BioBricks Foundation website](#)

PG Economics の報告は、英国が「Brexit plan」後の作物規制に健全な科学を持ち込むことが急務としている

独立した分析では、英国が、EU 規制のいくつかの側面及び Brexit plan 後の新育種技術 (NBTs) からの分岐しないことは、英国が利用可能な経済的およびより広い社会的利益を利用できなくなる可能性の機会を逃したことになることを報告している。

この報告書は、PG エコノミクス社の農業経済学者 Graham Brookes 氏が執筆したもので、ゲノム編集作物および遺伝子組換え生物 (GMOs) の規制に関する 3 つのシナリオを検証している。報告書は、英国が独自の健全科学に基づく規制制度を設定すれば、第一級の食品安全性評価システムを提供し、農業者により良い種子を提供し、競争力を高め、消費者の需要を満たすことができ、長期的に最大限の離席を英国にもたらす。これらのメリットは、世界のほとんどの国で実施されている規制制

度と整合的に、健全な科学に基づいて GMO と NBT の両方を規制する独自の道を英国が設定すれば、最も高くなる可能性が高い。

現在、すべての作物バイオテクノロジーの革新は、EU の規制枠組みの対象となっている。7 月、EU 司法裁判所 (CJEU) は、NBTs が同じ規則の対象となると裁定した。

詳しくは、以下のサイトのプレスリリースをご覧ください。 [PG Economics](#)